



防府市【山口県】 歴史文化基本構想

■策定年度：平成31年3月 ■人口：116,283人 ■市域面積：189.37km²
■担当課：防府市教育委員会（平成31年3月現在）



防府市には、山・海・川・平野が織りなす多彩な環境で培われた文化があり、瀬戸内地域の政治・経済の中枢であり続けてきた歴史がある。こうした環境に育まれた地域文化を代表する「文化財」を地域に宿る価値の体系としてまとめ、「地域らしさ」の魅力として打ち出していく指針を提示した。文化財の保存・活用の活動が各地域で人とアイデアがつながる契機となり、まちづくりに寄与する取り組みをおこなう。

5 歴史文化を表す つのキーワード

自然環境に育まれた文化、継承される伝統産業、
瀬戸内の景勝地、交通の要衝、国府の継承都市

課題

- ・地域文化を捉えきれていない
- ・文化財に関わる人材の不足
- ・文化財の価値が知られていない
- ・関連機関との連携が不足している

保存活用方針

- ・総合的把握調査の促進
- ・文化財保護に関わる人材育成
- ・文化財で地域をつなぐ
- ・文化財で地域を活かす

保存活用のための取り組み

身近にある文化財の良さに気づける企画の実施

生活スタイルに浸り込んでいて普段は意識していないものを文化財として見直し、それが地域に根ざした歴史文化と結び付いていることに気づく体験は、自らのアイデンティティを確保することにつながる。こうした個々の気づきを集め、地域らしさの良さを地元で共感できる企画を実施する。



文化財保護に関わる人材育成の推進

NPO法人等と連携して、文化財保存・活用に必要となる専門的知識や経験を習得できる講習や研修をおこなう。文化財に習熟した人材育成を計画的に推進できるように地域社会に働きかけていく。



文化財で地域をつなぐ

各地域にある共同体の暮らしや産業を支えてきた歴史的な中核施設（邸宅跡、寺社、産業施設等）を利用して「文化財活用拠点」を設置し、地域コミュニティの活性につながる文化財の継承活動ができるように地域住民と協働で取り組む。



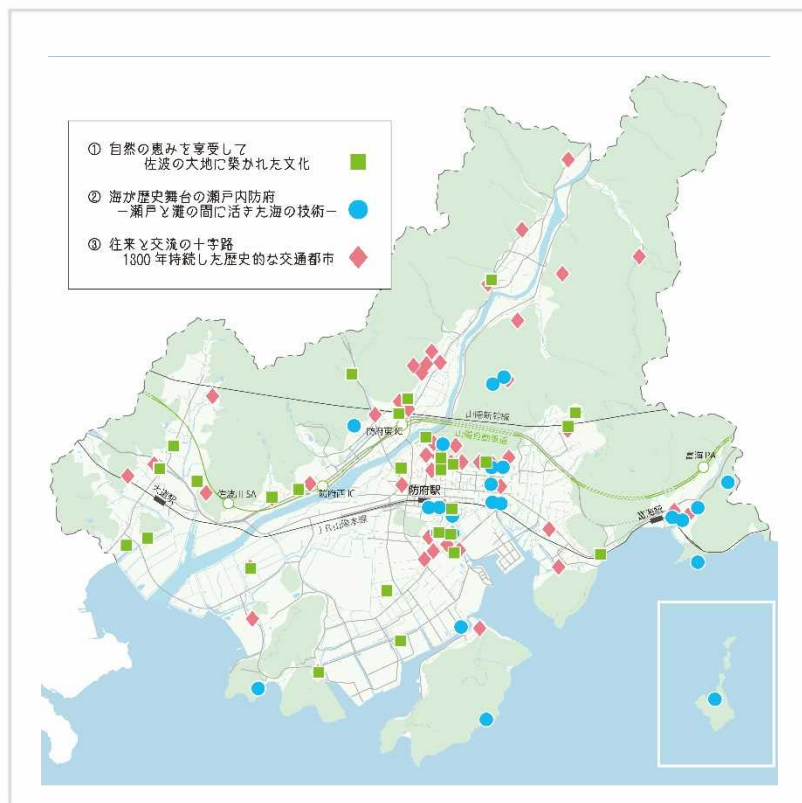
地域で文化財を守る

所有者個人で継承できなくなった地域にとってもかけがえのない文化財を、地域社会や文化財に関心がある支援者が協力して守っていくことができる体制を構築する。日常的にも住民や支援者による文化財の見回りを定期的におこなって、保存・活用において留意すべき課題等を地域社会で共有できるように計らう。





関連文化財群



地元の文化財の価値や魅力を「防府らしさ」を醸したすものとして知ってもらい、文化財の活用を促進するための方策として関連文化財群を設定した。現段階で、大テーマが3、中テーマが6、小テーマが16項目の構成としており、全体を通して防府市が「時代を越えて人々の心を惹きつけ、魅了してきた都市文化の継承地」であることを表現する。

ストーリー

- ① 自然の恵みを享受して
佐波の大地に築かれた文化
[山・川・大地] 技術・素材・景観
- ② 海が歴史舞台の瀬戸内防府
—瀬戸と灘の間に活きた海の技術—
[海] 潮流・航海・港・安全
- ③ 往来と交流の十字路
1300年持続した歴史的な交通都市
[人] 来訪者・定住者・在来者



策定後の成果（見込まれる効果）

① 未把握の領域への取り組みを強化

策定段階の基礎的な把握調査の内容をみると、文化財の分野・種別や地域ごとの把握件数に数量的な偏りが認められた。未調査部分があることや、文化財と認識されてこなかった場合が多くあった。補足する領域が明らかとなり、地域住民と協働で調査をおこなう等によって未把握の領域への取り組みを強化できる。



② 歴史文化の理解を深める

協働でおこなわれる様々な文化財の保存・活用活動によって、文化財と市民は身近で既に関わりが深い関係性にあることに気づき、その背景にある郷土の歴史文化への理解が深まる。文化財を通して防府の魅力を語る仲間が増えていく展開となる機運を醸成する。



③ 関連部局との連携強化

関連文化財群の将来の活用のあり方のひとつに、殆どが文化財で占められている市内の観光資源をテーマに沿った歴史文化のストーリーの中に組み込んで楽しめる企画として研くことができる。文化財を集合体としてまとめる新たな試みは、複合的に様々な分野との関係性が生じるため、関連部局や機関との連携を強化する手立てとなる。

